

# 山筆

第66号 / 2019年7月

土佐中・高等学校同窓会

関東支部会報

編集人 / 中平 公美子 (59回)

発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)

関東支部ホームページ:

<http://www.tosako-kanto.org/>



懇親会を盛り上げた79回生の4人

関東支部総会・懇親会の代表幹事を経験して

森木 隆裕 (五九回)

今回、9の回の代表として、関東支部同窓会総会・懇親会の代表幹事を経験させていただきました。

10年前も、20年前も、私は9の回として総会・懇親会のお手伝いをしてきましたが、今回は代表幹事。2月に代表幹事を引き受けて、今までにも増して大変になる予感がしていました。

そして、実際、何が一番大変だったかというと、「とにかく高知の人は人の話を聞かん!」。なんとか調整しようと思ったのですが、基本、人のゆうことを聞きません。でも、しばらくするとわかってきました。皆さんいろいろに動くのですが、総会・懇親会が行われるように、自然と物事が進んでいくのです。自分与えられた役割を理解していただき、独自性を出しながら、進んでいくのです。土佐高校のすごいところですね。みんなが最終的な目的に向かって、うまく進んでいくのです。あとは、私は本當の意味の調整をするだけ。SNSを使ったスムーズなやり取りで、情報を皆さんにお伝えすれば、総会・懇親会を作っていくことができました。49回生の先輩方、59回生の同級生、79回生のかわいい後輩たち、本當にありがとうございました。

代表幹事を受けて、一番最初に思ったのは、できるだけ若い、子育てをしている世代に参加してほしいということでした。そのためキッズスペースを作り、サテライトルームに総会と記念対談を生中継しました。また、比較的若い卒業生たちに、学校の食堂を思い出してもらえらるるように、学校の食堂メニューである「マヨカラ丼」を再現したり、食堂で売っていた永野旭堂の「ニコニコパン」と「ほうしパン」を取り寄せたりしました。村木さん、小串さんという素晴らしい講演者がいらっしやったこともあり、本當に多くの皆様にお集まりいただけました。ありがとうございました。

10年に一度、10年ごとの世代を超えて、総会・懇親会の準備をすることは本當に楽しかったです。皆さんどうもありがとうございました。



# 関東支部総会・懇親会が行われました

## 令和元年6月1日(土)



### ■総会のご報告

6月1日(土)霞が関ビル東海大学校友会館にて関東支部総会が行われ、活動報告と会計報告を行いました。年会費は、複数回の振込が可能な口座制に変更しています。ご理解の程お願いいたします。

### ■記念対談

小串記代さんと村木厚子さんの49回生のお二人による対談が行われました。学生時代のエピソードやお仕事での失敗談、セカンドキャリアについてなどお話いただきました。会場が満員となり、別室にてサテライトで視聴される参加者も。お二人には、懇親会でもご質問にお答えいただきました。キッズスペースでは夢中になって遊ぶお子さんたちが保育の方に見守られて楽しんでました。

### ■懇親会

懇親会は、川村明さん(49回)の指導で300人近い参加者全員での『ひざ裏伸ばし』を行うことから始まりました。新卒の94回生は今年も無料ご招待。アイスクリンや学食メニューのマヨカラ丼は大好評でした。また、高知から取り寄せたニコニコパンやぼうしパンは、明日の朝ごはんにと持ち帰る方もいらっしゃいました。

### ■今後の予定

＊はちきん会 銀座アスターお茶の水賓館

10月5日(土)・受付11時半 開宴12時

女性五千元・男性九千元・学生三千元

お申し込みは関東支部HPから

＊学生・若手社会人の会

会場は東京大学駒場キャンパス

11月9日(土) 開場14時から

＊来年度総会準備会及び学年幹事会

令和2年2月22日、霞ヶ関ビル校友会館

来年の総会は末尾0の回生が担当です。



関東支部HP QRコード

# 令和元年 記念対談

村木厚子さん（元厚生労働省事務次官）と小串記代さん（現株式会社富士ゼロックス総合教育研究所代表取締役社長）共に49回のお二人の記念対談が行われました。別室サテライトでご覧になった方もいたほど大盛況でした。真剣に且つ和やかだった対談の内容を少しだけご紹介いたします。



小串記代さん



村木厚子さん

■土佐中・土佐高時代の思い出  
小串：当時は真面目で純情な女子でしたが、桂浜の遠足などでは大胆なこともやりました。  
村木：私も対人恐怖症でした。席替えて自由に席を選んでよいことがあり、隣に座ってくれる男の子がいるはずがないと絶望的な気持ちになりました。なんと隣に座ってくれる子がいて、それが学級委員長だった今の小村校長でした。

■社会人としての40年間について  
小串：学校出た頃はすぐにお嫁さんになろうと思っていて、人のアセスメントという仕事に出会い、今の仕事に就きました。40年も仕事するのは全く想像していませんでした。

村木：結婚しても子供ができてもしっかりと食べていける仕事に就こうと思って、公務員になりました。産休2回と裁判で起訴休職が1年3ヶ月あったものの、37年半務めました。就職して最初は、大臣答弁メモの清書係でした。「経済社会七〇年計画」という言葉を清書したのですが、夜中の1時か2時頃に、間違いに気づきました。

「七ヶ年」だったんです。「間違えました」と言っていて、夜中に先輩総動員して差し替えました。そういう繰り返して人と口がきけるようになりまし。

小串：若い頃、秘書室で働いていて、社長が帰るときに、秘書室長と一緒にエレベーターまで送って

て、お疲れ様でした、と行って深々とお礼をして見送りました。ドアが閉まったので、やっと帰ったと思いい、上司と二人で万歳をしました。すると、急にドアが開いて、社長と目が合って、二人で笑いもせずに再び深いお礼をしたことがありました。

村木：私は29歳と35歳で子供を産んで、上の子が2歳のとき、娘と二人で島根に「子連れ赴任」しました。東京へ帰ってきたら、夫が長野に単身赴任して、また、母子家庭。そのとき、1ヶ月の海外出張に行けと言われました。行けませんというのも悔しくて、行きますって言って、子供は保育ママさんのところで「合宿」させました。それから20年以上経って、海外出張を命じた上司に話を聞きました。「村木の仕事なので村木に最初に言うべきだと思った。でも、行けないときの代わりは探すつもりだった。」結局、私も子供も成長できた。いい上司に恵まれたと思います。

小串：私自身は子供を育てていないのですが、職場では産後復帰した社員に、「ケアよりもフェア」に、本人の意志を尊重し、仕事の機会を提供するようにしています。村木：40代終わりくらいに死ぬほどつらい仕事がありました。ある日変だなと気がついたんです。寝てないのに眠くない、食べてないのにおなかがすかない。あとで、その話を取り調べの検事に話した

ら、それはクスリをやったときと同じですよ、そのままいくと廃人になりますと言われました。たぶんアドレナリンが出過ぎたのだと思います。そのときに同僚が、村木さんの仕事をどれか引き受けましょうかと言ってくれたのです。そう言われたことで突然自分が楽になって、その症状が治まったのです。

小串：上司から、専門職か管理職かって言われたときに、専門で引張らないと今の下はついてこないですよと偉そうに言っていたのです。でも、新規事業を担当し、同時に初めて自分が部門長をやって両方バランスをとるのに寝る時間がなくなりまし。そういうときに、周りの人が手をさしのべてくれて、大きな支えになりました。

■令和時代に向け、これからの日本について  
村木：誰かに助けを求めるとか、誰かの力を借りるとか、「つながる力」ってすごく大事なかなと思います。鹿角島の颯野（シキシマ）へ行ったら、「風土って、風の人と土の人で作るのです」と言われまし。風の人は外から来た新しい人で、土の人はその地域で一生懸命やってきた人たちなのです。小串：いま、世の中が非常に分断して、不寛容になっていま。ちよっとしたことでも許せないとか、待てないとか。でも、日本はやっぱりすばらしいなと思います。実

は今週財布をなくしたのですが、連絡をすると、それがそのまま戻ってきました。日本ってすごい、民度が高いなと変なところで感動しました。

■セカンドキャリアに関して

村木：産官学という、官を37年半やったので、これからは産と学をやりたい。産では、民間企業で社外役員をやらせてもらっています。学では、津田塾大学で教えています。キャリア開発の専門家から教えてもらいましたが、人生100年時代になると、探索→トライアル→確立→熟達を何度もやるのが大事だということです。私は37年半1回目をやって、2回目の探索→トライアルにはいって来たので、もう1回、2回やれたらなあと思っています。颯野で教えてもらった言葉が「ME DO」です。私も、批判するとか壊すとかだけでなく、自分で取り組める人でずっとありたい。セカンドキャリアは、市民として「ME DO」をやるのが私の目標です。（拍手）

小串：新たな制度や仕組みを組織の中で、適切に運用していくために、組織開発、コーチングでお手伝いをしたいと思っています。人はすべて解決策を自分の中に持っている、力があることを信じ切る、そういう気持ちで人に向き合いたいと思っています。（拍手）



# 懇親会 写真集





9の会から0の会にバトンタッチ



初参加の94回生と掛水先生・澁谷先生



学食メニュー再現  
マヨカラ丼



ニコニコパン  
ぼうしパン



キッズルームでは  
遊びに夢中



受付係ご苦労様です

新しい仕事、暮らしをはじめよう。

# 転職・移住

土佐へ!

気軽に相談してよ♪

**一般社団法人 高知県移住促進・人材確保センター**

高知本部

高知に帰りたいな、と思ったら、ぜひご相談ください。

高知県、全34市町村、農業・林業・水産業・商工業・福祉などの団体が参画した“オール高知”の体制で人材確保のさらなる強化に取り組んでいます。

☎ 088-855-7748    ✉ jinzai@iju-jinzai.kochi.jp

2名のコンサルタントが常駐!

**高知県東京事務所内**

☎ 03-6206-1707

[開設時間] 9:30~18:15 (平日)  
東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル7F

高知で働きたい!!を応援します。

**「高知求人ネット」**

ご相談・ご紹介等、よろしくお願いいたします。

高知県移住促進・人材確保センター  
代表理事 岩城孝章 (46回生)    コーディネーター 和田さつき (59回生)



吉村準備会名誉会長のだんだん良くなる5段締め



山本前校長と  
小村現校長



野球部OB  
の方々

# 都会で子育て

佐藤彩記子 (81回)



土佐の卒業生はどのような子育てをしているのだろうか？  
現役パパママの対談が実現しました。今回は未就学児を育てる3人に集まっていただきました。十人十色の生活スタイルのなかで、各家庭の信念や工夫をうかがいます。



■子どもとの生活で、どんなことが大変ですか？

Y：以前のことになりましたが、一番大変だったのは保育園の送迎です。保育園が職場の近くなので、1時間かけて満員電車で子連れ通勤をしていました。引越して、職住保近接の環境を整えました。今は保育園の送迎は私が担当していますが、仕事が忙しい時は事前に夫にお願いをしています。保育園は、当日でも最大20時30分まで延長できるし、給食もこだわってくれているので本当に助かっています。

帰宅してからはバタバタです。人手があるに超したことはないですよ。お風呂を入れるにしても、ご飯を作るにしても、電車にのるとしても、どれも一人でもできないことはないけれど、助けてくれる人がいるとでは全然違う。主人は週末も仕事があり出張も多いので、実家の親に上京してもらうこともあります。

K：うちは、この春から兄弟家族と実両親と同じ団地で住むようになりました。今日も子どもたちは両親にみてもらっています。通勤時間は伸びましたが、家族には助けられています。子育てにしんどさを感じたのは、第一子が産まれたばかりのときかな。周囲の人はまだ結婚もしていない人も多いですね。

U：僕は特に困っているという意識はないですよ。職業柄、色々な専門家とおつきあいがあるので、病院の情報とか欲しいときはすぐに人に聞きます。同

世代の子供を持つ友人や知人と情報共有したりもしています。

週に2回、子どもと一緒に20分ほど電車通勤(送迎)をしています。時間に融通が利くので満員電車には乗らないようにしています。

■子育てで大事にされていることはなんですか？

U：うちは約束を守ることです。例えば、朝ご飯は顔を洗って身支度したあとでないと絶対に食べさせません。どんなに泣いていてもです。そういった約束がいくつもありま

K：うちは時間管理です。毎日同じ時間に行動するように習慣づけています。ここでアマゾンエコーが活躍しています。リマインダーという機能で、「Oちゃん、宿題はしましたか？」と声がけしてくれるんです。子ども親から言われるよりアマゾンエコーの方が良いみたい(笑)

Y：うちは歯ブラシかな。どんなに忙しくて、ここはゆずれない。できないときは眠ってからもフッ素をかけています。

司会：大人の虫歯菌を移さないように一緒にの食器を使わないことや、スキんシップ(こどもへのキス)に注意しましたか？

Y：最初は気にしたことありませんでした。けれど、あまり気にしてないかもしれ



一般財団法人  
高知県産外資公社

ランチ 11:00~  
ディナー 17:00~



www.marugotokochi.com/  
TEL 03-3538-4351 (サンゴ・血絆・ヨサコイ)  
〒104-0061 東京都中央区銀座1-3-13-2F

土佐の料理とお酒を提供するお仕事です。  
スタッフも高知出身者が多く、  
安心して働けます。  
私たちと一緒に働いてみませんか？

- 横田 剛 (90) 筒井千夏 (91)
- 今井虹歩 (91) 久万武朗 (91)
- 西本七海 (91) 中嶋綾香 (91)
- 山村伸加 (92) 白石康太郎 (92)
- 杉山雄紀 (92) 満洲ありさ (92)
- 梅原徹都 (92) 佐竹啓志 (92)
- 中川果歩 (93) 野島大資 (93)
- 佐野鈴奈 (93) 中山 某 (94)
- 伊藤凛華 (94)

アドバイザー 濱田知佐 (56)



■教育方針で重視していることはありますか。

U：うちは自分で考える習慣をもたせることです。

司会：え、お子さんの歳ですよね？

U：そうですね。いろいろな場面で子供に選択を委ねます。例えば、子供が「お菓子が食べたい」とねだるとき「今、ひとつ食べる？それともお父さんとお母さんの用事が終わるまでまっけていられたら2個食べられるけど、どっちにする？」と伝えます。すると、子どもは自分で、多く食べられる方を選びます。面白いのは、我慢するときはお菓子が見えないところまで離れていきますね。(笑)

K：私は没頭する経験をもっとほしい。モンテッソーリの園に通わせていたからか、集中する力はすごかった。1から順に数字を書くのをずっと書いていくの。

今は絵をかくことや本を読むことが好きみたい。国語力を重要視して、上の子が産れるときに100冊の絵本をまとめ買いしました。

司会：100冊とはすごいですね。

K：メルカリのまとめ買いを利用して、親子で楽しみました。自分では選ばないような本も入っているの、新しい本との出会いができるんです。

今はずいぶん一人でも読めるようになっていますが、小学生になるとまた一気にレベルが上がってしまったので、

そこはまた一緒に読むこともあり、寝るときに下の子と上の子とそれぞれ一冊持ってきて一緒に読む。うえの子はある程度の文章がないと物足りなくなっているから読み聞かせは少し大変です。

Y：私も読んであげたいのですが、寝かしつけのために読むと楽しくなってしまう、かえって寝るのが遅くなりませんか？

司会：私も寝かしつけの本がストレスだった方です。あるとき主人が、寝かせるために本を読み聞かせるのは好きじゃないと言ってくれて。やめてすっきりしました。代わりにおやつ時間や日中に読んでいました。

■グローバルな社会にむけて

Y：私は、外国人に自分から壁を作らないようになってほしいなあ。

U：幼いころから、英語などの外国語のリスニング力を鍛えることは大事だと思います。そのため、うちはインターナショナルスクールの保育園に通わせています。ですが、母国語である日本語の学びについておろそかにしたくありません。

司会：外国語について何かやっていますか？

K：うちは身近に外国人がいるから、英語教室に通わせています。



〈パパママ対談を終えての感想〉

中平：皆さんプランがしっかりしていること、環境を求めて家族が協力しあっていることをたくましく思いました。保育園などに預けるけれど預けっぱなしにしない！素敵な子育てができていると確信しました。

佐藤：今回の対談により、仲間を得たような共同体感覚を体験しました。自分の親世代とのギャップもありますが、子どもの様子や子育て方針に即答できる現代のお父さんたちの存在には頼もしさを感じずにはいられませんでした。

〈参加者の皆さんの紹介〉  
U76回生(男性)：職業：弁護士 愛用品：「品」では特にないが、敢えていうならば「人」脈。周りの人からは有形無形の支えを色々といただいています。  
Y79回生(女性)：職業：公務員 愛用品：生協宅配サービス、ルンバ、食洗機、乾燥機付き洗濯機、マキタの掃除機(軽いのがいい)。洗面所に常駐して小まめに掃除します。



一般社団法人  
**土佐婚倶楽部**  
TOSAKON CLUB

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します  
年に数回、**合コン**等やっています！詳細はHPで

代表理事・東京相談室長 織田祐輔 (45回生)  
顧問 梅原 毅 (45回生)  
顧問弁護士 浦田理有 (76回生)

URL <http://tosakonclub.com/>

東京相談室 042-521-2020

〒190-0012 東京都立川市曙町1-12-19 吉田ビル402

cafe  
**104.5**



今回の座談会の会場 cafe 104.5

都心にある隠れ家的なカフェ&レストラン  
子供と一緒に『ママイベ』や音楽イベント、  
ヨガ教室、ウェディングパーティなど開催  
東京都千代田区神田淡路町2-101ワテラストワー 2F

次号にて訪問させていただける社長様に訪問インタビューをしてみたいという大学生または若手社会人の方を募集しています。企画へのご協力よろしくお願いたします。

■落ちていた雰囲気のあるビルにこだわりの商品がいっぱいある素敵なお店ですね。青山一丁目には、お洒落だけれどブランドにこだわらない方が多い街です。昨年、ビルのオーナーが変わりリフォームされたビルで新店舗をか所開いています。店内は、高知の木材を使って装飾しました。

ギフトショップの名前「MIS」はあなたと私という意味です。物を通して、人の縁をつなぐきっかけを作りたいのです。人と人をつなぎ、海外と日本をつなぎます。実際に、転機の際に大きな力を与えてくださった方に出会ってきました。お陰さまでたくさんの方との出会いの縁をチャンスに変えてここまで来たと思っています。

■平成30年1月。青山ビルから退去通知を受けられたときは閉店も視野に入れたと聞きましたが。

今は物が売れない時代です。物販を取り巻く環境も大いに変わってきました。バブルを知らない世代は目的なしには購入をしない傾向にあります。オンラインの商品が求められています。55歳になった今、新しいビジネスに挑戦する機会を与えてもらってよかったと思っています。

販売方法も、小さいお店だから出来ることを強みに頑張っています。店舗だけでなく、オンラインでの販売も重要ですね。伝え方、見せ方に工夫をしなければなりません。

とささとプロジェクトとKAMIYAを始められたきっかけも出会いですか。KAMIYAは、高知の食材を発信する

お店です。高知の食を発信するためには、まず食を知るべきだと紹介されたのが、ニューヨークタイムスにも紹介されたほどの店、元西麻布の内儀屋（かみや）の女将・千根明子さんとの出会いでした。家庭料理をアレンジして紹介する女将さんとの出会いが私を後押ししてくれました。

店舗改装の期間を商品開発に充て、高知の隅々まで回って生産者から直接お話を伺いました。オンラインの味噌や出汁、あわせしょうがなどに会いました。今でも薪で煮炊きするほどのこだわりをもって作られているのです。高知産は、品質が良くて高価なので商品化には頭を悩ませました。

KAMIYAは物の価値に物語をつけて発信します。女将さんのアイデアで、オリジナル商品を作っています。こだわりのある、本物の商品を紹介したいのです。

■高知を発信するために出張販売もしていると聞きました。

はい。紹介させていただける方には出向いて販売し、多くの方に知っていただきたいと思っています。百貨店や銀座のアンテナショップの店頭に立つこともあります。オリジナルの商品は試食販売で一度食べてもらうことが大事だと思います。梨で作ったドレッシングやトマトのすき焼きのたれはKAMIYAのおすめです。

料理教室も行い、高知の旬の食材を使っての内儀屋の女将さんの料理を紹介しています。ぜひ参加して食の奥深さを体験してください。 次頁へ

## ご縁をチャンスに変えて55歳からのチャレンジ

### 生産者の思いも一緒にみなさまにお届けしたい

#### とささとプロジェクトとは

高知の安心安全おいしいものをみなさまにお届けしたいという思いから始まったプロジェクトです。私たちは生産者を一軒一軒お尋ねし、共通の思いがある方の商品しかご提供しないと心に決めています。私たちが日頃手にする商品がどのような手間のもと生まれているのか？そんなことを知るとより美味しく感じ、また、あたたかな気持ちになれます。とささとプロジェクトは美味しさとぬくもりをお届けします。



## インタビューを終えて

25歳の時にギフトショップ経営を始められた西森さん。飛び込み営業や世界中の展示会など様々な経験を通じて、独自の経営哲学を創られています。

ビジネスの原動力は、人々とのご縁を大切にしたいという信念です。

「今は、物が売れない時代」と西森さんは言います。「それでもね、」と挑戦を続ける姿勢からは、人を惹きつけるためのリーダーシップを教わりました。

佐藤 彩妃子(八一回)

青山ビルのテラスでのインタビューはあっという間に2時間が過ぎた。運命に導かれるように2店舗目を始めたさとしさんのパワーはいつも全開だ。生産者のご苦労や、オリジナル商品の開発意図を話し出すと止まらない。自信をもって進められるものしか扱わないという姿勢がさとしらしい。ちょっと食べてみてよと試食を進められた。オシャレな使用法をそっと伝えてくださった女将さん。選んでうれしい、届けてうれしい気持ちになる。お二人の言葉に、手土産にお中元にと食べてもらいたい人の顔が目につく。さとしさんの情熱に圧倒された。中平 公美子(五九回)



■ところで、米国の大学を卒業されてすぐに店舗をもってお仕事されたのですか。

卒業後は、自立した女性になりたいと外資系の化学会社の総合職として東京で勤務していました。子育てとの両立や、子供に理解してもらえない仕事なのかと考えると理想の仕事ではありませんでした。そんな時、叔母の店の一つを譲り受けてギフトショップを始めました。25歳の時です。お好みの商品を組み合わせてラッピングする店としてスタートしました。素人考えで始めましたので、オープンの準備の仕方にも不十分なことがあり。当時リボン会社に勤めていた同級生が泊まり込みで手伝ってくれて、何とか初日を迎えられることを覚えていきます。今でも感謝しています。

■お店では、当初から海外の展示会で仕入れたものを販売しています。はじめはなかなか集客に結びつかず、「101」や博品館、ホテルのギフトショップに飛び込みで卸売りをする日々が続きました。

■大変な時期を乗り越えられたのはいつ頃ですか。

20年ほど前にオリジナルウェディングが流行り始めた頃です。披露宴後にお客様にお渡しするプチギフトを中心に、ホテルのブライダルフェアにも出店して忙しくなりました。披露宴を演出するシャボン玉が好評で、輸入が間に合わなくなることもありました。雑誌にも取り上げてもらい、自然と注文が入る時期でした。仕事が忙しくなると、主人が仕事を辞めて一緒に働くようになりまして。

■その忙しい時期に出産されて、大変だったんじゃないですか。

お店で産気づいて、病院でポロっと出産するのが理想でしたから。出産直前まで働いていました(笑)。息子は、生後3か月未満で保育所に入りました。ツイてる子なんです。忙しくてかまっていられない時期に保育所で常に栄養を考えた食事を作ることができた。現在の息子の成長は、保育所で作られたといっても過言ではありません。いつも誰かに支えられています。

■お仕事中心の毎日にも、お客様とのお付き合いとお忙しいのにもいつもパワフルですね。

今は、子供の存在がパワーを与えてくれています。邪魔ばかりしてダメな母なんです(笑)。でも息子が生まれてからを振り返ってみると、子育ても全てが人との縁のおかげ、人の力のおかげと思えるのです。

今は、息子のぶれない一途に頑張る姿にも励まされています。あの有名進学塾講師の林先生から「100歳まで生きる時代です。これからの子育てで大切なことは、親自身がいつまでもチャレンジャーでいることが大切です。」という話を聞きました。55歳の今、人との縁を大切に攻めていこうと思っています。日々チャレンジです。今は高知が誇る食材をたくさんの方に紹介したいのです。高知の旨味をキユキユと濃縮して「青山から発信していきたいのです。お酒の次にタイ茶漬、暑さ対策にジンジャーエールはいかがでしょう。青山ビルで高知フェアをするのが目下の夢です。

## 第4回 西森さと にしもりさと 57回生

### PROFILE

- 1982年 土佐高校卒業
- 1985年米国立ウェストヴァージニア大学卒業
- 1986年社団共同通信でのアルバイトを経て(株)ダウケミカル日本入社
- 1988年ギフトショップTWIN'S始める
- 2018年 KAMIYA byとささとプロジェクト



アンテナショップ前試食販売で女将さんと

## TWIN'S & KAMIYA by Tosasato Project

(株) トウインズカンパニー  
 会社情報  
 〒107-0061  
 東京都港区北青山1-2-3 青山ビルB1  
 KAMIYA: <http://www.tosasato.com>  
 TWIN'S: <http://www.twins.ne.jp>

# 宮地貫一さん（21回）を偲んで

平成31年2月23日に宮地貫一先輩がお亡くなりになりました  
日本教育界の、そして母校の大功労者であり  
また土佐中・高同窓会関東支部支部長を17年間の長きにわたりやって頂きました。  
誠に感謝の念に堪えません。心よりお悔やみ申し上げます。



## 宮地先輩

関東支部が現体制になった昭和六〇年、三〇回生は卒業生の真ん中だからと言うだけの理由で私は幹事長を命じられた。

当時宮地先輩は文部事務次官の要職に

ありご多忙だったので、支部長になられたのは二年後だった。雲の上の方だったが偉ぶることは一切なかった。人との繋がりや大事にされ、大勢でワイワイガヤガヤ飲むのがお好きで、早速一木会（第一木曜、銀座土佐酒蔵）を立ち上げ、平成二年の選挙で同窓の国会議員が五人になった際には全員に声をかけて下さりみんなで祝った。又これからは女性の時代だからと、はちきん会をスタート。母校が低迷気味だった時期には、推されて理事になられ、六本木にあったオフィスで支部役員のリートークの三金会を始めたが、酒食はご自身で用意して下さった。母校の将来について熱く語り合った後のカラオケではいつも最新の演歌を歌われた。

平成一九年には理事長に就任され、理事会改革に取り組み、その先見性とリーダーシップで百周年事業だった新校舎建築を前倒し完成するなど、常に先頭に立って引っ張られたご功績は大きい。桜満開の日に目黒川沿いのレストランで「米寿」のお祝いをしたのが最後となった。ご自宅で前夜までお元気に過ごされていたそうで、まさに大往生だった。



浅井伴泰（30回）

「慎んで、宮地先輩のお人柄を偲び、感謝の心で、お別れします。」

先輩は文部科学省での経歴通り、高等教育について、幅広い識見と本質を見抜く洞察力、「宮貫さん」と慕われる包容力を併せ持った方で、事務次官までつとめられました。退官後、土佐高の理事、理事長を懇請され就任。母校の大改革（寄附行為＝定款の改定、意識改革など）、新校舎建設、百年委員会の設置などを断行されました。この英断がなければ、「21世紀での母校は存在できない」と断言できましよう。さらに関東支部の運営改革（組織化、総会、若手の抜擢、会費制、はちきん会の創設等）を発案、実現に指導力を発揮されました。私どもの「宮地さん」は、いつも、いつも「土佐中、高」と「後輩」のことを愛おしく思われ、心を配られておられました。「いつも側にいて」「威厳があり」「兄貴のようで」「豪快で繊細」「シャイで、お洒落で、お茶目好き」「ちよっと行こか」私共が賜った数え切れないほどの「薫陶、恩義」に対して、尊敬と感謝の心をこめて、宮地先輩のお人柄を思い起こす語句を記しました。共に時を過し、想い出を共有した同窓とご一緒に、感謝と哀悼の誠を捧げます。

合掌 溝淵真清（32回）



### 宮地さんの熱い土佐高愛

今も、酒を飲みながら屈託ない笑顔を振りまく宮地さんが、身近にいる気がします。「市川君ちよっと来てくれ」、自転車で数分の下馬の自宅に呼ばれ、「これから、土佐高の先生達が今何を考え、希望しているか聞くため、全教員と会う。君も立ち会え」と。土佐高や同窓会を熱く語る宮地さん目はメラメラ燃えていました。

宮地さんは、土佐高80周年の直後に100周年を睨んだ学校全体のあるべき姿を検討する100年委員会と、学校の先生方の研修を企画・実施するTSL委員会を立上げ、毎週のように土佐高に足を運び、ほぼ教員全員から話を聞かれました。その結果、学校、振興会、同窓会から各1000万円合計3000万円の基金を創設してTSL委員会を有効あるものに仕上げ、また新校舎の建築（耐震問題、教育環境の整備）、寄附行為の改定（民主的な手続きの中での学校理事の選出等）など難しい課題を克服し実現されました。その功績により、来年100周年を迎える土佐高において、未来永劫に「冠する土佐の名にかなえ」と歌い続けられる礎は築かれたと思います。

宮地さんの熱い土佐高愛に、感謝と敬意を払うとともに、更なる母校の発展を祈念して追悼の言葉といたします。

関東支部幹事長 市川直介（53回）



### 宮地貫一さん 略歴

- 昭和2年4月9日 高知市長浜に生まれる
- 昭和20年 土佐高等学校卒業（21回生）
- 昭和26年 東京帝国大学法学部政治学科卒業
- 昭和27年 文部省入省
- 昭和60年 文部事務次官 翌61年退官
- 昭和62年 土佐中・高等学校同窓会
- 平成13年 勲二等旭日重光章 受章
- 平成19年 学校法人 土佐高等学校 理事長
- 平成31年2月23日 逝去

関東支部支部長に就任

新吉原の話の続きを(今日の良識に照らして甚だ不穏当な表現も少々あるが)可能な限り史実に忠実に書いてみる。文政八年(一八二五)の記録によると、新吉原の女郎屋の数は次の通りである。女郎屋には上中下があり、上から順に言うとうと、大見世(惣籬、そうまがき)三軒、中見世(半籬)十七軒、小見世(惣籬)百二十軒、小格子十八軒、長屋七十四軒。

大見世には一分(四分の一)より安い女はいない。いわゆる「全盛遊び」をする第一級の遊女(花魁、太夫)は一両から一両三分である。下の方は、小格子(一名チョンチョン格子)と、更にそれより下の長屋になると百蔵という百文の女が居た。しかし百蔵も文政期には二百文に値上がりしていた。二百文といつても、半纏股引の並の江戸っ子には簡単に遊べる金ではない。やはり吉原は唯一の公許



(上)江戸切絵図<尾張屋清七版 嘉永頃-1850頃> 遊客は山谷堀出口の今戸橋で舟を降りて日本堤(山谷堀の土手道)を徒歩または駕籠で新吉原に向かった。

の遊郭だけあり、他の場所にある岡場所とは格が違っていた。吉原の大見世は、役者・芸人は一切上げなかったそうである。小見世でも半纏股引の手合いは上げない。熊さん八つあんの手合いはチョンチョン格子か長屋でなければ上がれなかったのである。

第一級の花魁は「呼び出し」といって、自分の娼家では見世を張らない。同じ家でもより下級の遊女は見世を張るけれども、第一級は、新造・禿(とく)というような自分の取巻き共を大勢引き連れて仲之町の茶屋へ出かけて行き、客を連れて自分の家へ戻ってくる。つまり客は娼家に直接花魁を尋ねることはせず、まず仲之町の引手茶屋へ行き、そこから花魁を呼んでもらうのである。当然客は一両三分の場代だけでは済まないことは明らかであろう。

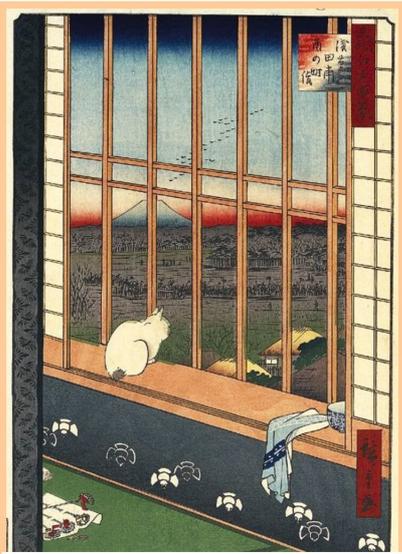
まず茶屋で、花魁を迎えて、客は暫時酒盛りをする。そのとき、芸者呼んで賑やかにやる。このときの入用(費用)が、茶屋へ上がり代が三分。芸者一人に二分、芸者新造に一分、茶屋雑用が二朱、茶屋

の亭主の祝儀に二分。ここまですでに二両二朱(現在の金で二十五万円程度)かかっている。それから、花魁の家に送られるのだが、この時は花魁一行が先立ちになり、茶屋の亭主、芸者が二人、箱屋、茶屋の女房・娘、下男、下女と大変な同勢になつて娼家に繰り込むことになる。

吉原の三大景物といえは、春の夜桜と旧曆七月の玉菊燈籠と八月の俄(にわか)踊りだが、これを書いていると長くなるのでまたの機会にゆづつて、三大景物に次ぐ花魁道中のことを書いておこう。

花魁道中はまあ言わば、遊女の大道宣伝である。旧幕時代に発達した足の芸術では、なんとといっても花魁の八文字と大名行列の槍持が両大関であった。吉原の遊女は廓外へ出るのを禁じられており、それならそれで、新吉原の江戸町から京町の間を東海道と見立て、道中と称して歩いたのである。これの描写は矢田挿雲翁の「江戸から東京へ第二巻」の見事な描写をそのまま引用することにしよう。

『旧幕時代に、親しく花魁道中を見た不良老年の話によれば、まず鶯の者が二人金棒を



(上)歌川廣重「名所江戸百景」より「浅草田雨西の町詣」(安政四年頃-1857年頃)。新吉原の遊女屋の格子窓と西南の鷺神社の方向を描いてと置かれた手ぬぐいの上の簪が艶めかしい。屏風の上には客と遊女が居るのであろう。

鳴らして、先駆を承わり、次にその家の若者が、花魁の定紋のついた箱提燈をたずさえて道を照す後から、花魁が若者に長柄の傘を差しかけさせて、そろそろと八文字を踏む。これに従うもの禿二人、抱え五六人、新振り、番新など称する男女数名、都合十余名の一行が、行きには右側を通れば、帰りに左側を通れば、帰りは左側を通れば、二三四問の東海道旅行を終えるのである。

花魁が道中に着るうちかけは、牡丹に唐獅子、雲に竜などの刺激的な模様を、金糸銀糸でコテと縫いつぶし、白綸子(りんず)三枚裏ねの小袖に五つ紋をそめ、頭には玳瑁(たいまい)の櫛、珊瑚の笄(こうがい)を蟹の脚のようにさして、素足に高い塗り下駄をはき、両手を懐に入れば、決して脇目を見据えたまま、五十三次を全部買切つたようなすまし方で、まず左かかとの足から踏み出し、その位置を中心として、左方に半弧形を描きながら、踵(かかと)だけ下し、次に履物全体を地につける。次は右足を進めて、同じような体操を繰り返すのである。

この花魁のお通り筋にあたる茶屋の主人は、かならず店頭に出迎えて、ご挨拶を申し上げねばならない規則になっている。しかし花魁はこれに對し、お言葉を賜われるようなこととはない。ただ艶然一笑して



(上)「江戸名所図会」(化政期1830年頃)より「新吉原町」の部分拡大図。一番手前左右の道が山谷堀の土手道である日本堤。図左下に見返柳があり、日本堤から下る衣文坂、そこから蛇行する五十軒道の突き当りが大門口、そこから先が吉原の里。



(上)右図と同じ方向から撮った現代の五十軒道(筆者撮影)。右図と同じく道は蛇行している。左に現代の見返柳があり、信号の名称は「吉原大門」とある。

店頭に腰をおろし、主人が勧める長煙管で、煙草をくゆらすのみである。その代り花魁がもし茶屋の前で転べば、そのばつとしてその茶屋に上り、総振舞をするようになった。これは費用よりも何よりも、遊女一代の大恥辱であった。たので、彼女等は、歌、俳諧、活花、茶事、琴曲の稽古の間に、この体操の練習を怠らなかつた。文武兼備というも悪かなりである。」

(西岡恒憲 四一回)

# 母校だより

## 校長 小村 彰

卒業生の皆さまには、いつも母校のことを気に掛けていただき、物心両面でご支援ご協力をお願いしていることに心から感謝申し上げます。また、とくに関東支部の皆さまには、修学旅行のコース別研修で大変お世話になり、重ねて御礼申し上げます。

### 成果続々！生徒も教職員もステップアップ

この一年、いろんな分野で生徒の頑張りが多い成果を生み出しました。そのいくつかをご紹介しますが、今後これに満足せず、より高いレベルをめざす意識が高まっていくことを願っています。

①現役国公立大一三四名合格  
本年度の大学受験は、現役生・既卒生ともによく健闘し、近年の中では上位に入る結果となりました。中でも、九四回生現役の国公立合格数は一三四名で、二校合格が可能だった二年を除くと史上最多となりました。また、合格率も七七%を超え、非常に高い水準になっています。

今後、難関大や医学部医学科などで一層の向上をめざすことが課題です。

### ②海外研修が大きな成果

昨年八月に中三〜高二の一九名が約一週間の日程でニューヨーク・ランド語学研修を行いました。それぞれ違った環境の家庭でのホームステイは、参加した生徒たちに強いインパクトを与え、一回り成長した姿で帰ってきました。この他、生徒一名、教員二名が一年間の海外留学をするなど、新世紀募金をもとに作られた海外研修制度が着々と成果を収めています。

### ③部活が大活躍

テニス男女、バドミントン男子、ハンドボール女子、弓道男



子、登山男子。元年度の県体はなんと六種目で団体制覇です。文化部も夏に行われる佐賀総文祭に器楽、合唱、吹奏楽、写真、百人一首かるた、美術・工芸、

点で具体的に動き始めている企画は次の通りです。

### ①百周年記念歌

生徒の作詞作曲、本校教員の伴奏作曲ができあがり、今年度入学式で合唱部により披露されました。本校ホームページからその曲を聴くことができます。また、現在、五九回生で昭和音楽大准教授の豊住竜志先生に吹奏楽・オーケストラ用の編曲をお願いしています。

### ②やぐらグラフィティ

校舎の高校昇降口に各回ごとにパネル展示していますが、八〇回生までしかなかったことから、昨年度九四回生まですべてを展示できるように作り直します。六月中には新しい展示が見られるようになります。また、今後は毎年付け加えていくようにする予定です。

### ③百周年記念テレビ番組

RKC高知放送で百周年の創立記念日直前の日曜日に放送するため、収録を始めています。当初は三〇分番組として計画していましたが、制作側からの申し出で一時番組組にすることにしました。五月二十一日には中学一年生（一〇〇回生）の試験風景の撮影が行われました。

### ④オリジナル年賀葉書

お年玉付き年賀葉書のスタンプの部分とくじの部分に校章や

百年のロゴの入ったオリジナル年賀葉書を作成します。ご希望の方に購入いただけるよう、準備中です。

### ⑤スクールビューで校内紹介

グーグル地図の中で、本校をクリックし、ストリートビューを表示させると、校内に入っている様子や、校舎内外の様子を画像でみることができるようになります。現在作業中で、できあがり次第、ホームページでお知らせします。

百周年のさまざまな企画をきっかけに、学校・同窓会・振興会を始め、土佐に関わる全ての人の絆を再確認し、次の百年の発展につなげられるよう努力してまいります。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

文芸、囲碁、将棋の九部門に六〇人あまりが参加します。全国のレベルを体感し、次のステップに進んでくれることを期待しています。

### 百周年記念事業

いよいよ百周年が来年になりました。記念事業の計画も具体化してきています。記念式典や講演会、運動部の招待試合や文化部の発表・展示など、来年実施するさまざまな企画の準備も進んでいます。この五月の時



# 本部だより

幹事長 西山彰一（48回）

初夏の太陽まぶしい日の朝、土佐の日曜市に小夏が並び始めました。夕刻にはまちのあちこちでよさこいまつりの練習が見られるようになっております。

同窓生の皆様におかれましてはお元気で過ごしての事と存じます。また日頃から同窓会の活動に深いご理解とご協力を頂き、この場をお借りし心から感謝申し上げます。

## ホームカミングデーのご案内

2019年8月17日（土）

現在、同窓会本部は8月の同窓会総会、「9の会」の企画によるホームカミングデーの準備を行っております。

今年の筆山ホール講演の講師には昨年12月に学校法人土佐高等学校理事長に就任されました傍士銑太氏（49回）にお願いしております。その他、特別授業（楠目先生）、同窓生によるライブ等々楽しい企画を考えています。懇親会では、同窓生関係の蔵元による飲み比べコーナーが近年大好評をいただいております。是非、この機会にお帰りください。

## 2020会員名簿について

母校創立100周年に向けて様々な事業への協力準備をおこなっております。

その一つに2020年母校創立100年の年に発行される同窓会名簿がございます。私たちの同窓会名簿は連絡手段であるとともに、それぞれの時代の卒業生が刻み続けた歴史であり、同窓生をつなぐ絆であることを私は年を重ねるごとに感慨深く感じております。同窓生の連携は土佐中高等学校の文化の継承とともに母校の発展に寄与できる大きなエネルギーとなるものと確信しております。

2020年5月連休明けには名簿調査、名簿の要不要調査、協賛広告の募集を開始致します。名簿の発行発送は、開校記念日以降年内を予定しております。新しく発行される記念すべき100周年記念同窓会名簿の調査に是非ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 筆山会新年会

― 向陽の空大合唱 ―

鍋島高明（30回）



小雪の舞う1月12日（土）、筆山会新年会は渋谷区代々木の代々木倶楽部（新日鉄住金の研修センター）で開かれた。23回の森健、吉本敏雄ら57名が参加して、前田憲一（37回）と中島宏（38回）の司会で始まった。佐々木泰子（33回）会長の挨拶、森郁夫（41回）同窓会関東支部長の乾杯の後は当クラブ自慢の料理に舌鼓みを打ちながら歓談の輪が広がった。30回、33回、37回、38回の参加が目立った。参加者の少ない回は来年に期待したい。

宴たけなわ、はちまん会、ハイクの会、学生社会人交流会、ゴルフ会、囲碁同好会、麻雀会など各クラブ活動のリーダーたちから熱い入会勧誘のメッセージが次々と発せられた。

西内一（30回）の中締めの後、沢村武彰（38回）による記念撮影（集合写真、スナップなど後日立派なアルバムとして届けられる）のち応援歌、校歌の大合唱でお開きとなる。今年は高田谷洋（38回）、小松三男（41回）のダブル指揮者で例年以上に盛り上がった。散会後は明治神宮初詣や麻雀組、話し足りない面々はクラブ内のレストラン代々木でいつまでも話が続いた。（敬称略）



## 土佐校理事長に 就任いたしました 傍士銑太（49回）

昨年12月12日、池上武雄理事長から土佐校理事長としてバトンを引き継ぎました傍士銑太（ホウジセンタ）です。誇り高い歴史と伝統のとても重い責任を負うこととなり、微力ですが、地域に愛される学校づくりに、皆様のご支援・ご協力をいただき笑顔をもって取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

東京への一極集中構造が続く中、地域の学校が置かれた環境には人口減少や高齢化など厳しい現実がありますが、土佐には時代の変化と多様性に拓かれ

た希望があります。小さいものでも、弱いものでも、それらを大切に学習環境のもと、土佐で学ぶことの価値は、既存の知を学ぶのみならず、未知の世界を探索する絶えない思考力と行動力でしょう。

創立100周年を迎えるアイデンティティを共有しつつ、希望に満ちた新しい100年のスタートを皆様とともに推し進めて参ります。ご寄付もまた、大きな力になります。ご協力を心よりお願い申し上げます。



## 原宿スーパーよさこい

（土佐校生13人参加）

今年も 8月25日（日）午前11時40分の表参道行進を皮切りに、13人の土佐校生がガーナ高校生や都内中高校生と一緒に踊ります。ご声援をよろしく願っています。（じまん市広場でお産市や餃子フェスもありますよ）

後輩たちは東京で五日間合宿、踊りの練習のほか、ガーナ高校生、麻布学園・都内高校生との交流、ガーナ大使館訪問、明治神宮ツアー、水問題の研究会等々、海外研修にひけをとらない濃密な時間を過ごします。

ガーナ高校生20人はこのあと高知市に移動、土佐高、土佐女子高、高知南高校との交流、ホームステイ、早明浦ダム見学などを体験の後、京都・奈良を経由して9月5日帰国の予定です。ガーナ高校生交流はお蔭様で16年目となります。この間寄せられた、同窓生各位からの温かいご支援に対して厚く御礼申し上げます。

### ガーナよさこい

支援会代表  
浅井和子（35回）

事務所  
03-3234-3838



## 前編集長 永森裕子さん（44回）逝く

尊敬する、大好きな永森裕子先輩が5年間の闘病の末、お亡くなりになりました。訃報を聞き、心は悲しみでいっぱいなのですが、私の脳裏にまず浮かんだのは永森先輩がお酒を片手に楽しそうに笑っているお姿でした。太陽のような、ひまわりのような方でした。私の長男出産の折には絵本を贈ってくださいました。お礼の電話をした際は初めての子育てに精神的に参っていた時期だったので、おおらかに、高らかに笑いながらご子息の思い出話をしてくださり、楽しい会話に心が癒やされたことが懐かしく思い出されます。20年間お世話になりました。安らかに眠ってください。

遠藤瑞枝（67回）

永森裕子さんは、早くから会報誌『筆山』に関わり、第52号から第55号まで編集長として活躍されました。5年ほど前に急なお病気で闘病生活となり、今年4月に入って急変のためお亡くなりになりました。

学生時代は新聞部だった永森さん。土佐の集まりには積極的に参加され、記事ネタを収集されていました。編集長としては、20年ぶりの甲子園特集が最後となりました。

母校の向陽新聞特集は、土佐校の歴史や学生の訴えなどを元新聞部の方々が紹介したもので、闘病に入られてからも気にかけていらっしやいました。私たちが編集員は、これからも永森さんの人脈づくりや記事のバリエーションの作り方などを見習っていきます。最後に、心からご冥福をお祈りいたします。

中平公美子（59回）



八丁目	七丁目	六丁目	五丁目	和光
三菱東京UFJ銀行	銀座ライオン	GINZA SIX	みずほ銀行	三越
	Nikonプラザ			四丁目
		ルノアール		
三井ガーデンホテル	花屋	東武ホテル		

銀座7-12-4 友野本社ビル地階  
TEL 03-3545-3855 土佐酒蔵

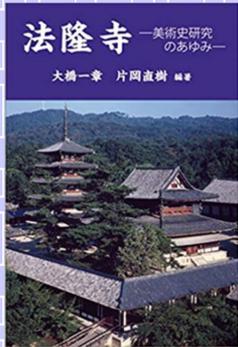
# 出版レーダー



田島征三 (34回生)  
「ちきゅうがわれた!」  
2019.4 ひだまり舎



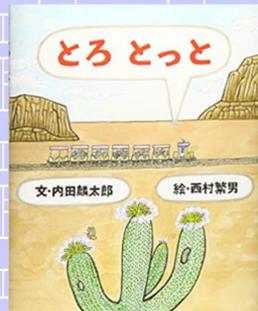
川村明 (49回生)  
「不調をあきらめない! 医者ヨガ ひざ裏のばしの奇跡」 2019.6主婦の友社  
「DVDつき 1回5秒 ひざ裏のばしストレッチー 正しい動きが動画でわかる! 奇跡のヨガ教室メソッド 壁ドン、壁ピタ、1・2・3」  
2019.2主婦の友社



大橋一章 (36回生)  
「法隆寺 美術史研究のあゆみ」  
2019.4 里文出版



森岡正博 (52回生)  
「完全版 宗教なき時代を生きるために—オウム事件と「生きる意味」」  
2019.4法蔵館  
「運命論を哲学する」  
2019.4明石書店



西村繁男 (40回生)  
「とろとつと」  
2018.12くもん出版



須藤靖 (52回生)  
「不自然な宇宙 宇宙はひとつだけなのか?」  
2019.1講談社  
「情けは宇宙のためならず: 物理学者の見る世界」  
2018.6毎日新聞出版



高山宏 (42回生)  
「新訳 不思議の国のアリス 鏡の国のアリス」  
2019.3青土社



門脇護 (53回生)  
(ペンネーム 門田隆将)  
「新聞という病」  
2019.5産経新聞出版  
「日本を覆うドリーマーたちの「自己陶醉」」  
2018.12ワック  
「オウム死刑囚 魂の遍歴 井上嘉浩 すべての罪はわが身にあり」  
2018.12 PHP研究所



中村真典 (48回生)  
「元CA訓練部長が書いた日本で一番やさしく、ふかく、おもしろいホスピタリティの本」  
2018.3 晃洋書房

**私の一冊**

塩田潮 (40回)  
『東京は燃えたか オリンピック1940-1964-2020』  
2018.12朝日新聞出版

東京オリンピック開催まであと1年。五輪出場権獲得のための大会が始まるなど、機運は高まってきた。過去2度のオリンピック招致の舞台裏では何がおこっていたのか、振り返ってみてはいかがでしょう。 遠藤瑞枝 (67回)

村木厚子 (49回生)  
「子どもが増えた! 明石市 人口増・税収増の自治体経営(まちづくり)」  
2019.2光文社